



園だより 8月号

Y M C A 保育園ねがい
2024年8月3日発行

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」

マタイによる福音書7章12節

7月は、今まで経験したことの無い暑さに見舞われました。5歳児「にじ組」は、7月にキャンプを行いました。東京YMCA山中湖センターで認可園3園が夏の自然を楽しみました。

8月も酷暑が続く、心と身体の健康を保つことを心掛けて過ごしてまいりましょう。

今月の聖書は「人にしてもらいたい事」ですが、まず「人にしてほしくない事」はどんな事なのでしょう？

脳は3歳までに形成されると言われ、3歳までにたくさんの感情が芽生えます。園では、一人ひとりのその時の感情を否定しないでうけとめていきたいと願っています。

子どもには「できれば悲しい思いをしてほしくない!」と考えるのが親心。ネガティブな感情を良くない物と考えがちですが、葛藤が無い人生はあり得ません。親になって思い知ったことは(血を分けたこどもなのに)「自分の努力ではどうにもならない自分以外の生命」「どんなに望んでも私が代わってはあげられない人生」でした。そんな中、教育・保育の視点では、「葛藤」は排除するのではなく、乗り越えるための「タフな心と身体をどの様に育むか」が課題です。

子どもに「してほしくない」と思う事は「私」(大人)の側の都合で、子どものその時の状況を理解してはいないのかもしれませんが、しかし、かけがえのない大切な生命は全力で守らなければなりません・・・。

大人が望ましくないと考えていても、子どもの中に生まれた感情を閉じ込めることなく、大人もいっしょに感じる事ができたら!きっと、私たちは豊かに感じる事で「葛藤」を乗り越えていき、心も穏やかになるのではないでしょうか。

聖書には、「心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入る事はできない。(マタイ18章3節)」とあります。生まれてから、初めての経験の一つずつ積み重ねて成長する子ども達。

子どもたちは大人が見落としてしまう小さな物や出来事に目をとめては、何かを感じて心が動き、興味が引き出された事に全力で立ち向かって何かをしようとしています。感情と思考と表現力の爆発的な発達です。そこには、共感し、いっしょに行動したり、見守ったり背中を押したりしてくれる仲間の子どもや大人がいます。人と関わる中で、お互いの事を大切に過ごしていけたらと願っています。

(園長 今井世都)

山中湖キャンプ

